

インターバンクの声（2015年8月26日）

昨日の日経平均は、午前中の取引で一旦は300円近く上昇に転じたが、結局1万8,000円を割り込んで取引を終えた。その後が始まった欧州市場では、中国の金融当局が追加金融緩和を発表したこともあってか、英FT、独DAX、仏CACがいずれも上昇に転じ、市場の混乱もようやく落ち着くかとも思われた。ニューヨーク市場でもNYダウやナスダックが、米経済指標が堅調だったこともあって買いが先行した。ただ、こうした反応も引けまで続くことはなかった。為替市場でも中国の政策金利と預金準備率の引き下げ効果に期待してドルが堅調になり始める兆しが見えた場面もあったが、株価と同じように突然急落する展開が見られ、中国市場が落ち着くとの確信を持ってないようだ。ドルが安定的に強含んでいるのは対豪ドルくらいだが、これは中国の先行き不安に最も影響を受けるのが豪ドルだからに他ならない。株価にしろドルにしろ、この数日間でこれだけ大幅に下げれば自然に自律反転的な調整も入るかと思われたが、今回はそうもいかないようだ。それほど反発がないまま現状の水準に近い相場展開が長引く可能性も出てきたようだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。